白竜王物語

昭和57年4月18日白竜会記念

古歌（たぶん鎌倉時代のものか）

安芸の国 出会いの清水 さぎの森 阿弥陀が峰に 巖島山

竜形文字に似た白石出現

大森神社の南面、東面は百年前迄は沼であった。H氏宅は南面の端にある。

去る一昨年庭に築地するとき、その沼の底より出たのが、竜紋をした大理石の石であった。勿論この辺の石ではない。山口県秋吉台の石ではなかろうか。上図は漢字のできる以前の文様である。諺に竜は沼に千年、山に千年の行を積むと言う事がある。近所の人達で石の謂れを知るものはいない。ただ池の草の蛇の池（阿弥陀が峰の奥にある）の伝説は残っている。蛇が牡鹿に姿を変じて現れた話等がある。

今から約二百年前の話

寛政丁巳八月二十三日、浅野家の絵師岷山は広島城を出発し八幡保井田に宿り、次に小伏に宿り三日目に大森に来た。大森社の絵を描きその日記の一部に「大森の山ノ神を祭る。その祭は三年に一度九月二十九日に祭礼あり。藁を以って大なる竜の頭を作り桂の木にて胴を作り、森の木に縛りおくという。」岷山は山の神（阿弥陀が峰の蛇の池）の祭に竜神の姿を作ったことが話にあったのである。

次の話は表紙に書いておいたように伏の字がつく部落である。即ちこの地は山伏のおった所である。その山伏は阿弥陀が峰の観音堂に籠り修行をしたことであろう。その行の後は神舞（カグラ）を舞いながら諸国を廻ったのである。舞い終わって口上「さって、今日今夜当所明神へのご参詣の人々様、皆様には福德円満を与えられ天下は太平、国家は安全」とある。このように山伏舞（各所に残る神舞）があったのだ。